

緑

の

募

金

だより
2026

春

皆様から寄せられた大切な「緑の募金」を
国内外での森づくり、人づくりに活用しています。



人々と森林をつなぎ、
森林がもたらす豊かな暮らしを未来につないでいくために、
緑の募金は、地域の人々の身近な緑化活動や
次世代が参加する森林体験活動などの支援に、
大切に活用されています。



親子参加での里山再生のための植樹（福島県）



緑の募金

「緑の募金」の活動は、緑豊かで活力のある、
誰もが安心して暮らせる未来をつくるために **SDGs** に貢献します！



「緑の募金」の活動は、SDGsへの貢献

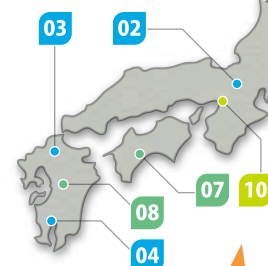
森と人を元気にする活動を応援！

森林の活力を支えるため、植樹や下刈り、間伐などを地域住民とボランティアの人々が一緒になって行っています。



森づくりのリーダーを育てる活動を応援！

持続可能な森づくりを目指し、だれでも参加できる安全で楽しい森づくりを実施するため、人材育成を行っています。



2024年度の中央事業で支援した国内での活動は、239カ所です！



にもつながります！



SDGsとは、2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です。

子どもたちを育む自然体験活動を応援！

体験を通じて「私たちの生活において、森林がいかに重要な役割を担っているのか」を知り学んでもらうことを目的に、森や里山での「体験学習」を行っています。



自然災害被災地の復旧や緑化を応援！

地震、山火事等の被災地域で、防災林等の森林整備や居住地域周辺、学校周辺の緑化を行っています。



海外での森林保全活動を応援！

海外の森林荒廃が進む地域で、環境改善のための植樹活動や地域住民への普及啓発などを支援しています。

ウガンダ共和国

ナカソングラ県にある2育苗場の生産性を向上し、農家に苗木を安定的に廉価で販売できる体制を整えることを目的に、苗木の生産や育苗場のマネジメントに関する技術トレーニングや種子・育苗ツールの供給を行うと同時に、農民グループにはワークショップを行い、44ヘクタールに4万本の苗木を植栽しています。



中華人民共和国

中国の内モンゴル自治区で急速に進行する砂漠化を防止するため、6ヘクタールに15万6千本の苗木の植栽を行っています。植栽する苗木は、現地からの要望があった家畜の飼料や屋根材などの生活に結び付く在来低木種を中心に、生態系の回復だけでなく、住民の生活に結び付く持続可能な活動として進めています。



2024年度の中央事業で支援した海外での活動は34カ所です！



緑の募金による生物多様性保全の取組

2022年12月の生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)で「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、2030年までに、生物多様性の損失を止め、反転させ、回復軌道に乗せるための緊急の行動をとるとの目標(ネイチャーポジティブ)が合意されました。また、陸と海のそれぞれ少なくとも30%を保護地域及びOECM(保護地域以外で生物多様性の保全に資する地域)により保全する「30by30目標」等が位置付けられ、官民を挙げてこの目標の達成に取り組むこととされました。

国土緑化推進機構においても、「緑の募金」を活用して、これらの目標の達成に資する取組を積極的に支援しています。



国土緑化推進機構は2025年11月に宣言しました。



詳しくはこちら

桐生川の水源を守り続けるための森づくり

桐生川源流フォレストデザインクラブ



桐生川源流フォレストデザインクラブ(群馬県)では、桐生川の水源地域となっている森林を保全し、生物多様性豊かで自然指向型の森づくりのモデルを形成するため、市民や企業の参加を得ながら、社会環境のニーズにあった森づくりに取り組んでいます。

桐生川の源流域約6ヘクタールの森林を、①渓流魚の生育環境の改善のための溪畔林の造成、②シカ食害跡地の広葉樹林の再生、③雪害等スギ林の樹種転換や針広混交林化等に取り組むものです。

令和6年度の緑の募金による助成事業(公募事業)に採択され、シカの食害を受けた広葉樹林の再生を目指し、獣害(シカ)防止用のネットの設置とともに、市民や企業の参加を得てコナラ約100本の植樹を行いました。

当地域は水源地域でもあり多様性に富んだ森林の造成を目指すこととしており、今後も、森づくりに関わりたいという市民や企業の協力を得ながら森林の保全に取り組んでいく考えです。



コナラの植樹活動の様子



コナラの苗

ナイロビ川河川敷の環境回復保全活動

(特非) Little Bees International



当法人は、ケニアの首都ナイロビに位置するコロゴッチョスラムにおいて、中心部を流れるナイロビ川河川敷の環境を回復し、生物多様性保全のための植樹活動に取り組んでいます。「緑の募金」による国際協力事業の助成を得て、令和6年度は1年間で、アカシアやアフリカンオリーブ、スギなど約2,400本の植樹を行いました。

ボトムアップでの持続可能な地域社会づくりのため、住民参加型の植樹活動を展開し、コミュニティスクールの子どもたちも巻き込み、地域の環境再生活動のうねりへとつなげています。また、地域住民を対象にした環境セミナーを年4回開催し、植樹活動に参加することの大切さや意義を広め、幅広い層からの活動参加を目指しています。

今後とも、こうした地域住民参加型の環境活動を通じ、ナイロビ川河川敷の生物多様性の保全回復を進めるとともに、同時に生物多様性の価値等について啓発を進めてまいります。



植樹活動の様子



環境セミナーの様子



スギ等森林の有効活用支援事業

未来につなぐ人にやさしい森づくり



「JRAエコチャレンジ」ロゴマーク

健全な森林循環を維持するために
間伐・除伐を行う(長野県)



森林ボランティアによる少花粉スギ苗植樹活動(滋賀県)



日本中央競馬会



JRAでは、自然や生き物からの恵みを将来にわたり継続して享受することにより「中央競馬の持続的成長」を実現することを目的に、「JRAエコチャレンジ」と名付けられた「再生可能エネルギーによる競馬開催」、「ゴミの再資源化」、「バイオマス活用」等に取り組んでいます。

この取り組みの更なる発展を目指し、2021年に緑の募金を通じて「スギ等森林の有効活用支援事業」への支援をスタートし、競馬場を起点に“サステナブルな未来”の実現を目指しています。

「スギ等森林の有効活用支援事業」は、花粉対策等を含む、未来につなぐ「人にやさしい森づくり」を目指し、日本各地でスギ林等における花粉の少ない苗木や広葉樹等の植栽を行うとともに、間伐材等の利用・加工を行い、森林循環の維持を進めながら人にやさしい森に変えていく事業です。

これまでに、全国各地で延べ20団体が、スギ林等における花粉の少ない苗木の植栽や広葉樹等の導入の活動に取り組んでおり、今後もこの活動を全国に広げていきたいと考えています。

つながる、つなげる、子ども若者応援事業

持続可能な森づくりリーダーの育成



道具や林業という仕事について
講師から学ぶ(千葉県)



掛け声を出しながら森林を
整備する子どもたち(長野県)



地球温暖化防止を願い地元小学生と行う植樹活動(神奈川県)



株式会社ZOZO



ZOZOは、企業理念「世界中をカッコよく、世界中に笑顔を。」の実現を目指して、ファッションとテクノロジーを活用し、環境面・社会面の課題解決に向けてステークホルダーと共に取り組んでいます。また、サステナビリティステートメントとして「ファッションでつなぐ、サステナブルな未来へ。」を掲げ、2030年までに「20歳未満の次世代に『つながり』を持ち、地域の活性化に貢献する」を重要業績評価指標(KPI)として100万人との接点創出を目指しています。

この目標を達成するための一つとして、ファッションEC「ZOZOTOWN」の堂本剛さんとのコラボ企画の売上の一部による「緑の募金」への寄附を通じ、「つながる、つなげる、子ども若者応援事業」を支援しています。この事業では、子どもたちの自然環境への理解や興味関心を広げ、将来の森づくりのリーダーを育てていくことを目的に、未就学児や小・中学生とその保護者等を対象に森林整備体験や幼稚園等の園庭の緑化活動等を支援しています。

今後も、子どもや若者への支援を通じ、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

「森の出前授業」の取組

公益社団法人

京都モデルフォレスト協会



当協会では、「京都モデルフォレスト運動」のもと、府民参加による森林づくりや緑化活動を進めています。

「緑の募金」を活用しながら、環境学習にも力を入れており、平成28年度からは、府内の保育園、幼稚園、小・中学校の園児や児童・生徒を対象にした「森の出前授業」を実施しています。

この授業は、府教育委員会の「結ネットKYOTO」(子どもと社会を結ぶまなびづくり協議会)に登録し、府内の園や学校へ情報発信を行うとともに、当協会の「森の人材バンク」に登録され、森林に関する授業や森林体験の指導ができる講師(人材)を紹介しながら展開しています。

授業の内容はとても多彩で、自然観察をはじめ、林業体験やシイタケの植菌など、実際に手を動かして学べるプログラムがそろっています。子どもたちは、普段の授業ではなかなかできない体験を通じて、森林の役割や自然の大切さを楽しく学んでいます。



「森の出前授業」の様子

この取組は年々広がりを見せており、令和6年度末までに約4,000人の子どもたちに授業を届けることができました。今後も多くの園や学校にご利用いただけるよう、引き続き情報発信に力を入れていきます。

また、緑化運動や緑の募金の大切さについても、様々な場面を通じてお伝えしながら、緑あふれる京都の未来づくりに引き続き取り組んでまいります。

木育を中心とした次世代育成の取組

公益社団法人

高知県森と緑の会



当会では、これまで「緑の募金」を原資に県内のボランティア団体や当会市町村支部などが実施する森林整備や緑化活動を含め、森林環境教育や森林ボランティアの人材育成など、幅広く支援、協力してきました。毎年、春と秋の緑の募金強化期間には、みどりの週間行事などのイベントに合わせて高知市中心街で街頭募金を実施しています。四国森林管理局や高知県、高知市の関係者、緑の少年団や緑サポーターの方々にも参加、協力をいただいて募金呼びかけをしています。

近年は、緑の募金を活用した「木育事業」にも力を入れており、8年ほど前から乳幼児の保護者を対象に離乳食用の木のスプーンを作る「ファーストスプーンづくり」講座を開催しています。毎年13か所以上、延べ100名以上の



「木のおもちゃひろば」の様子



「こうち木育ひろばinひがしこうち」の様子

保護者らが参加し、家庭で木育に取り組むきっかけとなっています。また、木に親しみ、木の活用や森林の大切さを普及する目的で、当会市町村支部や協賛企業などの協力を得て年に4回程度、「こうち木育ひろば」を開催しています。県産の木や竹を使った竹とんぼやカッコー笛、木のペンダントなどを作る体験ブースや木のおもちゃひろば、森の絵本の読み聞かせなど、イベントメニューが豊富で、毎年、延べ700名以上の参加者に楽しんでいただいています。

令和10年には本県で全国植樹祭が開催されます。これを機に、高知県緑の少年団連合会の体制を強化し、企業や団体、行政とパートナーシップを組み、緑や森を育て、守る活動を支援するとともに、県下に緑の少年団活動の輪を広げていきます。

「緑の募金」は、さまざまな参加方法により実施しています!

家庭募金 街頭募金 職場募金 企業募金 学校募金 など



より一人でも多くの人に参加してもらえるように、
日々の生活の中で参加、協力ができるさまざまな方法により実施しています。

コンビニやスーパーのレジ横で!

レジの横に緑の募金へ協力をする募金箱が置かれています。



写真提供: 株式会社ローソン 株式会社ファミリーマート

自動販売機で!



緑の募金寄付型自動販売機は、販売額の一定割合が募金にあてられます。

写真提供: ダイードリンク株式会社

スマホの決済アプリで!



みずほ銀行や全国の地方銀行が提携する J-CoinPay、メルペイ残高を利用して寄付ができる「メルカリ寄付」からも募金が行えます。

寄付金付き商品で!



寄付金付き商品を購入すると、その販売価格の一部が募金にあてられます。食品、衣料品、家電製品、出版物、日用品など協賛商品は多岐にわたります。

写真提供: 宝酒造株式会社

あなたの周りにある品物で!

あなたの周りにある物品を査定して、その査定額が募金になります。



提供: お宝エイド® 買取大吉

イベント会場やチャリティーグッズで!



イベント会場等に設置された「緑の募金ブース」での募金箱や募金グッズで緑の募金に参加できます。

協力: 長谷川町子美術館
写真: みどりとふれあうフェスティバル会場 (高尾 599 ミュージアム)

カード類で!

クレジットカードの利用ポイント、クオ・カードの購入額の一部が募金となります。



写真提供: ENEOS 株式会社 株式会社クオカード

身近に常設された募金箱で!



様々な公共施設や協力いただいている会社の職場に「緑の募金」の募金箱が置かれています。

写真: 上野動物園内に設置されている巨大「どんぐりくん募金箱」

ご協力
ありがとうございます!

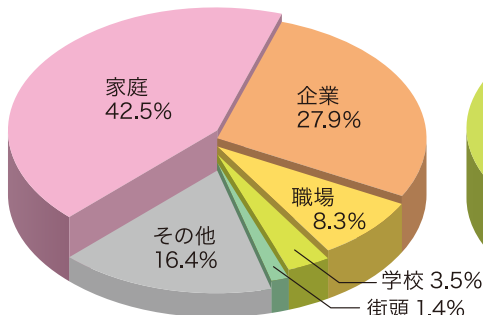


緑の募金 2025年

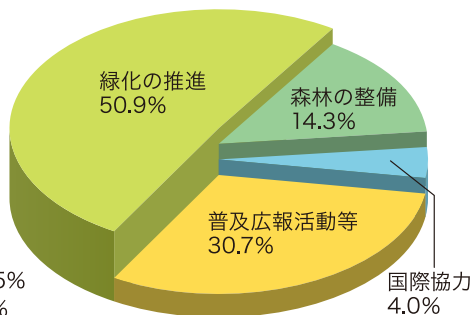
2025年に皆様から寄せられた「緑の募金」は、約21億円になりました。

緑の募金 は、中央募金と地方募金とで構成され、国内外の森づくり・人づくりに活用されています。

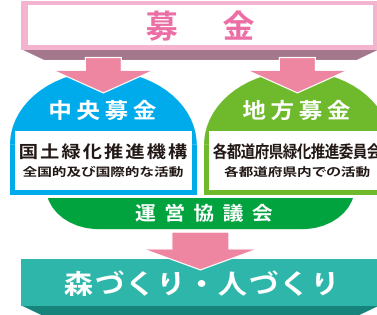
ご協力いただいた分野



緑の募金の使途



募金のながれ



「緑の募金」にご協力をお願いします

春の新緑シーズン(1~5月)と秋の紅葉シーズン(9~10月)を中心に行われています。



公益社団法人
国土緑化推進機構

National Land Afforestation Promotion Organization
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4 砂防会館別館 5 階

0120-110-381

ホームページアドレス
<https://www.green.or.jp/>

電子メールアドレス
bokin@green.or.jp

詳しくは「緑の募金」ホームページをご覧ください。

緑の募金で
SDGs に貢献!

